

職

場

の

歴

史

関係 資料集

全4巻

六花出版

〔編集復刻版〕

竹村民郎 ● 編



- 揃定価——8万円＋税
- 配本——全2回配本
- 序文——竹村民郎
- 解説——古川誠・稲賀繁美
- 推薦——岩井忠熊・鳥羽耕史

敗戦直後と高度経済成長到達のはざまに生まれた、
一九五〇年代の若い世代の生活記録！
女性も含めた労働者や会社員たちの手による、
「自分の仕事や生活をつづること」
Ⅱ「歴史を叙述すること」の実践記録。
「母の歴史」「サークル村」にならぶ、全国で展開された、
文化運動／「自立」し、地に足をつけたサークル運動の
ひとつとしての貴重な足跡を編集復刻！



竹村民郎

「職場の歴史をつくる」とはどういうことなのか。

一九五〇年代——敗戦前の皇国史観を否定することはもちろん、英雄の活躍や政権の変遷をたどるだけの歴史を批判し、「民衆」「市民」の視点から考察する歴史観が、ようやく主流となっていたが、それでもまだ歴史は学者ら専門家によって叙述されるものであった。

三井三池、日鋼室蘭、近江絹糸などの労働争議とのかかわりあいのなかから誕生した「工場の歴史をつくる会」は、いわゆるブルーカラーの労働者にとどまらず、働く女性たちの積極的な参加をえて、自分たちの歴史は自分たちで書く、という活動をはじめた。これが「職場の歴史をつくる会」の誕生である。歴史学者やその卵である学生たちは「知識の革新」をもとめて運動にどっと参加してきた。

自分たちの歴史を書くということは、働く職場の記録をつづることにとどまらなかった。機関誌『職場の歴史』が「職場と生活」と改題したのもそのためで、職場だけではなく、ひろく「生活」を記録することで、自分たちの現在やこれからを見つめようとしたのである。

一九五八年に書かれた職場の歴史をつくる会品川客車区のサークル誌「仲間

は』では、自分の歴史を集団で書くことについて、つぎのようにまとめている。

「自分の歴史を書きあげると、分会機関誌に発表し、それを全会員や職場の人々に読んでもらい、必ず合評会を開いてその中で書いた人の考え方、生き方を自分の問題として考え、又、批判します。」

こうした批評活動は、職場の歴史をつくる運動におけるすべての職場サークルに共通するものであった。ここで注目することは、集団で「歴史」を書くことが、書き手の対象化をうながし、結果として自己の「発見」になるということである。

近年、全国的に若い研究者や学生の間でひろく一九五〇年代に展開された生活記録運動や多彩なサークル運動と結びついた文化運動の機関誌や文集などを発掘し、その「自立」主義に基礎を置く多くの作品についての研究が目覚しく展開している。

今回復刻された職場の歴史をつくる会の機関誌や運営委員会ニュースを網羅した全四巻の記録集は、時代が大きく動いた一九五〇年代のサークル時代、自らのアイデンティティをもとめて職場に生きた若者たちの真実の姿を直視するものとして、注目に値する。

(編者)

「職場の歴史をつくる会」関連年表

年	事項
1954	6 近江絹糸争議始まる
1954	6 日鋼室蘭争議始まる
1955	3 第一回総会開催
1955	5 「歴史評論」職場の歴史」特集号刊行
1956	6 「職場の歴史」特集号合評会
1956	8 広島で原水爆禁止世界大会
1956	9 機関誌「職場の歴史」創刊
1956	9 王子製紙苫小牧工場組合史編纂委員会と懇談
1956	10 国民文化会議に参加
1956	11 国民の歴史運動批判についての見解を発表
1956	2 恩給局女子職員サークルが「母の歴史」を発表
1956	3 書記局メンバーが日本鋼管鶴見製鉄所を訪問
1956	5 河出新書「職場の歴史」刊行
1956	5 深大寺ヘハイキング、職場の交流を行う
1956	9 国民文化会議と協力、組合史編纂講座計画
1956	7 会の歴史の編纂について議論する
1956	7 「運営委員会ニュース」第一号発行
1956	9 父を語る会を開催
1956	5 機関紙名を「職場と生活」に変更
1956	12 安保阻止第八次統一行動について討論
1956	5 「現代史の方法」上刊行
1956	5 衆議院で新安保条約強行採決
1956	6 新安保条約強行採決に抗議する声明を発表
1956	4 国鉄研究発表会を開催
1956	7 田町電車区付属浴場前で、田町ハダカ事件発生
1956	11 機関誌第二〇号刊行。田町ハダカ事件特集
1956	12 機関誌第二三号刊行。最終号となる



職場の歴史をつくる会
発会の集い

皆さん職場の「歴史」を創る会というのを
つうやうに御説明致ししょう。

皆さん職場の「歴史」を創る会というのを
つうやうに御説明致ししょう。

つぼみ

つぼみ

つぼみ

職場の歴史をつくる会
創る運動は広がる

創る運動は広がる

創る運動は広がる

職場の歴史をつくる会
創る運動は広がる

創る運動は広がる

創る運動は広がる

みどりの瀬は若人の集い

みどりの瀬は若人の集い

みどりの瀬は若人の集い

職場の歴史をつくる会
創る運動は広がる

創る運動は広がる

創る運動は広がる

ピクニックに行こう!!

ピクニックに行こう!!

ピクニックに行こう!!

現代史をつくる 仕事と職場の記録

岩井忠熊（立命館大学名誉教授）

石

母田正『歴史と民族の発見』（一九五二年）は、その時代に日本史を学ぶ青年、学生に多大の影響を及ぼした。その書の一章に「村の歴史・工場の歴史」がある。いわゆる国民的歴史学運動は現代の学問や知的世界で戦後日本史学の恥部であるとして敬遠されたり、当時の日本共産党の学問に対する誤った干渉として決着をつけようとしていることが多い。

しかし、こうした国民のための歴史学運動と並行して、一九五四年、労働運動のなかから、労働者みずから普通の意味での文化運動の枠をはみだした側面をもった職場の歴史をつくる運動が出発した。この運動の特色は、職場の文化運動、たとえば生活記録運動が個人の身辺の雑感という形になりかねないのにならして、職場の歴史をつくる運動の主体は職場の仲間たちであり、生産や生活に根ざして職場の歴史を書くことによって、現代史にアプローチしてゆこうというところにあった。職場の人たちが集団で、若い歴史家や学生たちの協力もえて、職場に共通する課題を客観化しようとする試みは、彼らの歴史意識の変革にもつながる。

近年、全国的に若い研究者や学生の間でひろく一九五〇年代に展開された生活記録運動や多彩なサークル運動と結びついた文化運動の機関誌や文集などを発掘し、その「自主」主義に基礎をおく多くの作品についての研究がさし潮のごとく展開している。今回復刻される職場の歴史をつくる会の機関誌などの資料をまとめた全四巻は、まさに二度と帰らぬ一九五〇年代、文化の脈脈の一環として、注目に値する。

（いわい・たたくま）

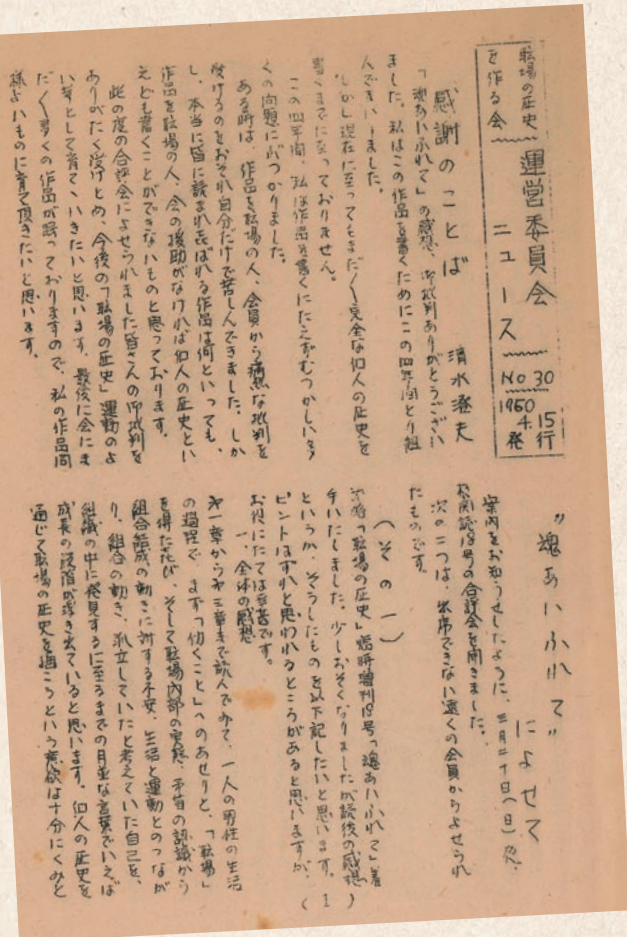
女性サークルと男性サークルを 架橋する資料

鳥羽耕史（早稲田大学教授）

一九五〇年代のサークル運動には明確なジェンダー配置があった。主として女性によって担われた紡績・紡織工場や母親たちのサークルでは生活記録が盛んで、さらに自らの声を持たないサバルタンとしての母の歴史を書くことにもつながっていった。木下順二・鶴見和子編『母の歴史』（河出新書、一九五四年）などにまとめられた東亜紡織泊工場の実践はその代表例の一つである。一方、軍需工場、重工業、炭坑、国鉄などの労働者や大学生によるサークルは主として男性によって担われ、「へたくそ詩」

とも呼ばれた詩が主要ジャンルであった。『東京南部サークル雑誌集成』（不二出版、二〇〇九年）にまとめられた下丸子の実践などが代表的なものだ。ここにまとめられた『職場の歴史』サークルの実践は、その両者を架橋するものになっている。重工業をはじめとする労働者と国民的歴史学運動を実践しようとする学生たち、あるいは同運動とは一線を画す立場の学生たちのつながりによって誕生した「工場の歴史をつくる会」は、主として男性によって担われたものであるが、詩ではなく自分たちの工場や労組の歴史、そして父の歴史を書こうとした。さらに「職場の歴史をつくる会」となったサークルは、電信電話や百貨店の女性職員も加わることで厚みを増し、必ずしも男性中心でない形に発展していく。欠号もなく丁寧に保存されたガリ版の原資料をたどることで、私たちは一九五〇年代のサークル運動のもう一つの可能性を見出すことができるだろう。

（とば・こうじ）



収録資料

第1巻

誌名●号●発行年月(推定したもの)*●発行者は「職場の歴史をつくる会」
〔機関誌「職場の歴史」第1号〕第10号〕
職場の歴史●第1号●一九五五・九
職場の歴史●第2号●一九五六・二
職場の歴史●第3号●一九五六・四
職場の歴史●第4号●一九五六・五
職場の歴史●第5号●一九五六・六
職場の歴史●第6号●一九五七・一
職場の歴史●第7号●一九五七・六
職場の歴史●第8号●一九五七・九
職場の歴史●第9号●一九五七・二
職場と生活●第10号●一九五八・五

第2巻

〔機関誌「職場の歴史」第11号〕第23号〕
職場と生活●第11号●一九五八・八
職場と生活●第12号●一九五八・二
職場と生活●第13号●一九五九・一
職場と生活●第14号●一九五九・三
職場と生活●第15号●一九五九・五
職場と生活●第16号●一九五九・八
職場の歴史●第17号●一九五九・二
職場の歴史●第18号●一九六〇・一
職場の歴史●第19号●一九六〇・八
職場の歴史●三河島以後●第20号●一九六三・二
職場の歴史20号特別附録●一九六三・一*
職場の歴史(会創立10周年記念特集)●第21号●一九六四・二
職場の歴史●第22号●一九六五・八
職場の歴史●第23号●一九六五・二

第3巻

資料名●号●発行年月(推定したもの)*●発行者は未記入のものはすべて「職場の歴史をつくる会」あるいは「職場の歴史をつくる会」運営委員会〕
〔運営委員会ニユース〕第1号〕第59号〕
運営委員会ニユース●第1号●一九五七・七
運営委員会ニユース●第2号●一九五七・八
運営委員会ニユース●第3号●一九五七・九
運営委員会ニユース●第4号●一九五七・九
運営委員会ニユース●第5号●一九五七・一〇
運営委員会ニユース●第6号●一九五七・一〇

はつ春の集い●一九五六・二*
会報第1号●一九五六・二*
連絡会議のお知らせ●一九五六・三*
『職場の歴史をつくる会』の歴史について●竹村民郎
●一九五六・九*

組合史編纂講座のお知らせ●国民文化会議職場の歴史を作る会
●一九五六・一〇*
御招待●一九五六・一〇
御案内●一九五六・一一*

職場の歴史をつくる会々則改正案●一九五七*
〔研究会案内〕●一九五七*
会の水準をあげるために●一九五七*
あらゆる職場にサークルを育成しよう●一九五七*
お願い●一九五七*

御案内総会開催について●一九五七・三*
会報2号●職歴機関誌部●一九五七・三
〔研究会文例〕●一九五七・三*

大根物語／婦対部長には女性を●一九五七・四*
国際電々職場の歴史を創る会発表の集い●一九五七・五*
『炉材工場と労働者の変遷史』合評会●S百貨店職歴サークル
●一九五七・七*

『炉材工場と労働者の変遷史』合評会●恩給局職歴サークル
●一九五七・七
1957年度第二回総会 総会資料●一九五七・七*
〔故竹村民治郎氏追悼〕●故竹村民治郎氏追悼父の歴史を語る集
い●世話人●同●一九五七・九

勉強会のお知らせ●一九五七・九
かいらん「職場の歴史」第八号をお読み下さい
●恩給局職場の歴史をつくる会●一九五七・九*

〔討論会案内〕●歴史評論編集部●一九五七・一〇*
御招待●国民文化会議／職場の歴史をつくる会●一九五七・一〇*
総会御案内●一九五七・一一

お知らせ●職歴サークル●一九五七・一二*
現在までの組織部の動きと反省●一九五七・一二*
三周年記念総会の討論のまとめ●一九五七・一二

第4巻

〔諸資料Ⅱ〕
お知らせ●職場の歴史をつくる会Sサークル●一九五七・一二*
忘年会のお知らせ●一九五七・一二*

運営委員会ニユース●第7号●一九五七・二
運営委員会ニユース●第8号●一九五七・二
運営委員会ニユース●第9号●一九五八・二
運営委員会ニユース●第10号●一九五八・三
運営委員会ニユース●第11号●一九五八・三
運営委員会ニユース●第12号●一九五八・五
運営委員会ニユース●第13号●一九五八・五
運営委員会ニユース●第14号●一九五八・七
運営委員会ニユース●第15号●一九五八・八
運営委員会ニユース●第16号●一九五八・九
運営委員会ニユース●第17号●一九五八・一〇
運営委員会ニユース●第18号●一九五八・二
運営委員会ニユース●第19号●一九五八・二
運営委員会ニユース●第20号●一九五九・一
運営委員会ニユース●第21号●一九五九・四
運営委員会ニユース●第22号●一九五九・六
運営委員会ニユース●第23号●一九五九・七
運営委員会ニユース●第24号●一九五九・七
運営委員会ニユース●第25号●一九五九・九
運営委員会ニユース●臨時号●職場の歴史をつくる会会計係
●一九五九・一〇
運営委員会ニユース●第26号●一九五九・二
運営委員会ニユース●第27号●一九五九・二
運営委員会ニユース●第28号●一九六〇・二
職場の歴史(会報「運営委員会ニユース」)●第29号●一九六〇・三
運営委員会ニユース●第30号●一九六〇・四
運営委員会ニユース●第31号●一九六〇・四
運営委員会ニユース●第32号●一九六〇・六
運営委員会ニユース●第33号●一九六〇・七
運営委員会ニユース●第34号●一九六〇・八
運営委員会ニユース●第35号●一九六〇・九
運営委員会ニユース●第36号●一九六〇・一〇
運営委員会ニユース●第37号●一九六〇・二
運営委員会ニユース●新春特集号●第38号●一九六一・一
運営委員会ニユース●第39号●一九六一・一
運営委員会ニユース●第40号●一九六一・三
運営委員会ニユース●第41号●一九六一・四
運営委員会ニユース●第42号●一九六一・五
職歴運営委ニユース〔運営委員会ニユース〕●第43号●一九六一・六
運営委員会ニユース●第44号●一九六一・八
運営委員会ニユース●第45号●一九六一・九
運営委員会ニユース●第46号●一九六一・一〇

あゆみ「職場の歴史」組台結成3周年記念●恩給局職場の歴史を
創る会●恩給局文化祭実行委員会●一九五七・一二
きかんしや●国鉄職歴サークル●一九五七・一二
職歴運動三年の経験を大切にしよう●一九五七・一二*
或る組合員の歴史●恩給局職場の歴史をつくる会●一九五七*
職場の歴史を読んで●一九五七*
個人の歴史●一九五八*
あしあと私のあゆみ●菊池一徳●一九五八*
〔入社式〕●(デパート店員)●一九五八*
合評会の要点●合評会準備委員●一九五八*
新年宴会のお知らせ●一九五八・一*
アンケート●職場の歴史をつくる会委員会●一九五八・二
職歴Sサークル一九五八年度計画案●一九五八・二*
職歴国鉄サークル一九五八年度計画原案●一九五八・二*
つぼみ号外●一九五八・二
調査会報第一号号外●職歴国鉄サークル●一九五八・二*
つぼみ●二号●一九五八・二*
調査会報第二号号外●職歴国鉄サークル●一九五八・二*
会報●Sサークル●一九五八・三*
〔総会案内〕●一九五八・五*
〔案内文〕／趣意書●一九五八・五
合評会のお知らせ●一九五八・六*
職場見学のお知らせ●一九五八・六*
機関誌合評会の討論内容第十号●一九五八・六*
つぼみ●職歴運営委員会●一九五八・六
趣意書●一九五八・六*
キャンプファイヤーを囲む夕に御参加下さい●一九五八・六
みどりの湖は招く若人の集いフェスティバル通信●一九五八・七
仲間には●職場の歴史をつくる会品川客車区サークル機関誌
●一九五八・八*
『父母の歴史を語る会』お知らせ●一九五八・八
合評会●一九五八・九*
職場の歴史 講座案内●一九五八・九*
職場の歴史をつくる会総会のしおり●一九五八・一〇*
〔案内〕●一九五八・一二*
〔合評会の案内〕●一九五八・一二*
御願い●一九五八・一二*
お知らせ●一九五八・一二*
〔アンケート〕●職場の歴史をつくる会機関誌係●一九五八・一二*
〔案内〕●一九五八・一二*

運営委員会ニユース●第47号●一九六一・二
運営委員会ニユース●第48号●一九六一・二
運営委員会ニユース●第49号●一九六一・一
運営委員会ニユース●第50号●一九六一・二
運営委員会ニユース3・4月合併号●第51号●一九六一・四
運営委員会ニユース●第52・53号●一九六二・五
運営委員会ニユース●第54号●一九六二・六
運営委員会ニユース●第55号●一九六二・七
運営委員会ニユース1962・8・9・10合併号●第56号
●一九六二・一〇
運営委員会ニユース●第57号●一九六二・二
運営委員会ニユース総会報告号●第58号●一九六二・二
職場の歴史ニユース〔運営委員会ニユース〕●第59号●一九六三七*
〔諸資料Ⅰ〕
〔工場の歴史をつくる会案内〕●民主主義科学者協会歴史部会
●一九五四・二*
ある労働者の歴史●青山崇著(卒論)●一九五四・二
職場の歴史をつくる会々則●一九五五
資料職場の歴史をつくる会が生まれるまで●一九五五*
第1回作品研究会『N労組の歴史』の研究●職場の歴史をつくる
会作品研究サークル●一九五五・二*
N労組の歴史●藤本敏雄・高木康次●一九五五・二
西岡製作所労働組合労働協約●一九五五・二*
〔ピクニックへのお誘い〕／幻灯会と総会のお知らせ
●一九五五・三*
幻灯会と総会のお知らせ／ピクニックに行こう
●一九五五・三*
職場の歴史を作る会ニユースNo.1●一九五五・三*
第2回作品研究会きみよの手記●一九五五・五
職場の歴史を創る会ニユースNo.1●一九五五・七
職場の歴史を創る会ニユースNo.2●一九五五・八
庶務だよりNo.1●一九五五・八
御案内●一九五五・九*
職場の歴史を作る会連絡会のお知らせ●一九五五・九*
資料●一九五五・九*
『職場の歴史』原稿募集について●一九五五・一〇*
職場の歴史をつくる会連絡会議のお知らせ
●一九五五・一〇*
「職場の歴史」の原稿を募ります!!●一九五五・一〇*
参考資料「職場の歴史をつくる会」について●一九五五・二
おさそい●一九五五*

座標●国鉄品川客車区職場の歴史をつくる会岡島博●一九五八*
職場の歴史をつくる会のお知らせ●一九五八*
職場の歴史をつくる会年表●一九五九・一
合評会のお知らせ●一九五九・一*
おさそい●一九五九・三*
ピクニックに行こう!!●一九五九・四*
ごあんない●一九五九・五*
六月例会のお知らせ●一九五九・六*
〔レジュメ〕●一九五九・六
カンパについてお願い●一九五九・六*
〔年表〕●一九五九・六
私達の手で私達の歴史を書きましょう●一九五九・九*
国民文化全国集会速報No.2●国民文化会議●一九五九・九
伊勢湾台風の被害を受けた藤本委員の御家族にカ
ンパを!●一九五九・一〇
〔カンパ要請〕●一九五九・一二*
特急のお知らせ!●一九六〇・三*
出版の案内●一九六〇・三*
職場の歴史をつくる会 春季会合宿と出版記念御案内
●一九六〇・五*
緊急のニユースNo.1●一九六〇・六
会員集会を開こう●一九六〇・六*
声明●一九六〇・七
父の歴史をかたる会に集ろう!●一九六〇・七
お知らせ●職場の歴史運営委員会●一九六〇・一〇*
全国の労働者の皆さんへ●電機労連・東京地協・ソニー労働組合
●一九六一・五*
声明●職場の歴史をつくる会総会●一九六一・六
おねがい●一九六一・六*
『特別研究集会』のお知らせ●一九六一・七*
9月11日運営委員会報告●一九六一・九*
戦後生活記録運動資料●一九六五*
職場の歴史を作る会年表●一九六八*
石川島造船所労働運動史●一九七〇・五
職場の歴史を読んで●一九七〇・六*
職場の歴史を読んで特集父の歴史●一九七〇・一〇
職場の歴史●河出書房●一九五六・五
歴史評論職場の歴史特集号●民主主義科学者協会●一九五五・五

『編集復刻版』

職場の歴史

関係
資料集

全4巻

●刊行概要

●編・序文 竹村民郎（元大阪産業大学教授）

●解説 古川誠（関西大学准教授）

稲賀繁美（国際日本文化研究センター副所長／教授）

●年表 永岡崇（日本学術振興会特別研究員）

●体裁 B5判／上製／総約1,700ページ

●揃定価 8万円＋税（全2回配本）

●推薦 岩井忠熊（立命館大学名誉教授）

鳥羽耕史（早稲田大学教授）

第1回配本

2017年11月刊 本体40,000円＋税 ISBN978-4-86617-035-0

第1巻 機関誌『職場の歴史』第1号～第10号 一九五五年九月～五八年五月

第2巻 機関誌『職場の歴史』第11号～第23号 一九五八年八月～六五年二月

2018年5月刊 本体40,000円＋税 ISBN978-4-86617-038-1

第3巻 運営委員会ニュース 第1号～第59号 一九五七年七月～六三年七月

十諸資料Ⅰ 一九五四年二月～五七年二月

第4巻 諸資料Ⅱ 一九五七年二月～七〇年一〇月

第2回配本



*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-28 電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <http://rikka-press.jp>

2017・9